

園長だより「素直な子ども」① 第29号

保護者の皆さんはお子さんが素直であってほしいと願っておられますよね。皆さんが素直な子どもに育ててほしいと願うのは当然のことです。ですから、愛情をたっぷり注ぎ、言葉かけに気を付け、素直な子どもになるように子育てをしておられるわけです。

長い間、小学校の先生としてたくさん子ども達に関わってきた私から言えることがあります。それは「子どもはみんな素直である」ということです。もちろん時と場合によって素直でない時もありますが、そのベースはみんな素直です。「うちの子は素直でない」と思っておられる方はおられませんか。それは間違いです。正確に言えば「素直でない時がある」ということです。本来は素直であるはずのお子さんが素直でなくなる時はどんな時でしょう。それは・・・。

① 納得できない時

私たち大人であっても「これは意味があるのか」「何でやってるんやろう」と感じることはありますよね。社会生活を送っていく中で「やらなくてもいいとは思いますがみんながやっているから」ということは当たり前になってきます。世間体とか付き合いなどのしつらみが増えてくるので仕方がないことだと思います。でも、子ども達には「仕方がない」はありません。楽しいことはやりたいし、嫌なことはやりたくない。「何でそんなことをせなあかんねん」ということです。

② 思い通りにならない時

ゲームをして遊びたいのにママは片付けてお風呂に入りなさいと言う。やりたいことはやる。やりたくないことはやらない。単純明快な子どもの論理です。僕はゲームがしたいのに・・・。子どもにすれば素直でない行動を取らざるを得ませんよね。

③ 自分を見てもらえていないと感じた時

自分のことを見てくれていないと感じた時に子どもは反抗します。ママやパパを困らせることで構ってもらおうという気持ちが溢れます。なぜなら、素直になるとママやパパが振り向いてくれなくなってしまうからです。子どもが素直になれない時、本当は甘えたいのに甘えられない状態で「こっちを見てよ、ママ!」「かまってよ、パパ!」というサインなのかもしれません。

子ども達が本来持っている素直さを持続的に発揮できるようにするためにはどのようなことに気を付けて子育てをしていけばいいのでしょうか。少し意識するだけで案外簡単に実践できることなんです。その中身については次号の園長だよりで触れていきたいと思えます。